

2001 Vol.1 Suppl.

The Japanese Journal of Welfare and Aesthetics

日本美容福祉学会誌

「福祉」と「おしゃれ」21世紀
— 介護の視点から —

会期／2001年4月28日(土)

会場／山野美容芸術短期大学
〈山野愛子メモリアルホール〉



抄録集

日本美容福祉学会

大会長	塩原正一
事務局長	木村康一
副事務局長	杉浦ゆり

Japanese Society of Welfare and Aesthetics

第 1 回日本美容福祉学会学術集会

『福祉』と『おしゃれ』 21 世紀
－介護の視点から－

大会長 塩 原 正 一

(山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授)

会 期：2001年4月28日(土)

会 場：山野美容芸術短期大学
＜山野愛子メモリアルホール 他＞

協 賛：山野美容芸術短期大学

目 次

大会長ご挨拶.....	1
歓迎のご挨拶.....	2
会場案内.....	3
お知らせ.....	5
プログラム.....	7
大会長講演	
『介護施設における「おしゃれと身だしなみ」への関心　－全国調査より－』.....	9
シンポジウム	
『21世紀の高齢者・障害者と「おしゃれ」・「身だしなみ」－美容の役割は－』	
装いの立場から.....	13
住生活の立場から.....	15
化粧心理の立場から.....	17
福祉文化の立場から.....	19
医療施設の立場から.....	21
福祉施設の立場から.....	23
エキシビション.....	25
『車イス利用者の和装着付け・ヘアー&メイク』	
ワークショップ.....	26
講習『車イス利用者の和装着付け』	
運営委員会名簿.....	27
広告協賛一覧.....	28



ご 挨 拶

第1回日本美容福祉学会学術集会

大会長 塩 原 正 一

記念すべき第1回日本美容福祉学会学術集会を、節目とする21世紀の初年2001年に山野美容芸術短期大学で開催できますこと、誠に光栄に存じます。この学会の創設は一昨年（1999年）の11月11日、東京有楽町の日本外国特派員協会（プレスクラブ）で日本美容福祉学会設立総会が開催された、その日と致します。この間、紆余曲折がございましたが、この度、4月28日（土）に学術集会として第1回の学会を開催することが出来ますことは、一重に皆様方のご協力とご支援の賜ものと感謝しております。

新しい世紀を迎え、皆様は各々心あらたに希望に燃えた人生設計をお持ちと思います。21世紀はIT（情報技術）革命、特にインターネットに代表される電子メディアがめざましい進歩成長を遂げ、グローバル（地球）社会の中で私たちの生活環境も大きな変貌を受けると思います。一方、わが国では近未来に避けて通ることのできない少子化と高齢化の社会問題があります。少子化の問題は個人的評価と社会的評価の背景を持ちますが、高齢者問題は障害者対策と共に社会的背景の中で、すべての国民の理解と協力があってこそ解決できるものと思います。すでに、その対策として行政法の改正、社会資本の充実、教育制度の見直し、生活習慣の改善、情報提供システムと利用、および個人の危機管理意識、など多方面に改革・改善の施策が取られています。

日本美容福祉学会の目指すものは、高齢者・障害者の方々と、その多くの関係者が心身ともに健康で社会生活を過ごすために学術面で協力することと解釈しております。具体的には介護を必要とする人（要介護者）、介護に携わる人々（介護者）、および福祉分野の関連（専門家、施設、教育機関、地域住民・家族等）従事者が抱えている様々な問題を科学的に研究あるいは調査を行い、その結果を報告・発表することで今後の福祉社会に役立つことへのお手伝いをする、またできると考えます。同時に新しい「美容福祉学」を学問として確立することにあります。美容福祉（学）と言葉（文字）で現わしますと美容と福祉の合成語と一般的には解釈されます。そうであるならば私は「福祉美容（学）」とし、福祉に役立つ美容とすることが一般社会では理解されると自負しております。いずれにしてもここで言う「美容」は通常のパーマや髪型、化粧とかメイク（メイクアップ）をするという狭義の意味ではないとします。美容とは「適度の睡眠・食事・便通や洗顔・入浴・運動により常に健康な素肌を保つ（新明解国語辞典=三省堂）」、「容姿を美しく整える=（旺文社国語辞典）」ともあります。広義に捉らえますと美容とは「おしゃれ・身だしなみ」や「身ざれい」をする・になるの一つの方法・手段と考えられます。単に一般的な狭義の意味で「美容」を解釈しますと男性の高齢者・障害者（30～40年後は男性の高齢者も化粧をするでしょうが）あるいはこの方々の利用する施設等は「福祉美容（学）」の対象から除かれてしまいます。

第1回日本美容福祉学会学術集会のメインテーマは「福祉とおしゃれ21世紀—介護の視点から—」です。シンポジウムでは装い、住居、化粧心理、福祉文化、医療施設、さらに福祉施設の立場からシンポジストとして専門の諸先生をお迎えいたしました。『介護における「おしゃれと身だしなみ」—美容の役割は—』について各々の立場から率直な忌憚のないご意見・討論を期待しております。今回の学術集会を開催しました最大の目的は美容福祉（学）とは何か、目指すものは何かを多くの人々と対話することにあります。さらに、学術集会にご参加くださりました皆様とともに高齢者・障害者の方々に少しでもお役に立てる学会に発展させたいと切に思っております。



歓迎のご挨拶

－第1回日本美容福祉学会学術集会に寄せて－

学校法人山野学苑理事長
山野美容芸術短期大学学長

山 野 正 義

第1回日本美容福祉学会学術集会が、本学キャンパスにおいて開催されますこと、光栄に思うとともに、ご参加のみなさまに、心から歓迎のごあいさつを申し上げます。

1999年11月、日本美容福祉学会が創設された際、私は「美容福祉」という概念が、これからの日本の福祉政策の大きな柱になっていくだろうし、またしなければいけないと考えていると申し上げました。以来今日まで、さまざまな立場から、この課題に積極的に参画していただいている皆様方に、敬意を表するものです。

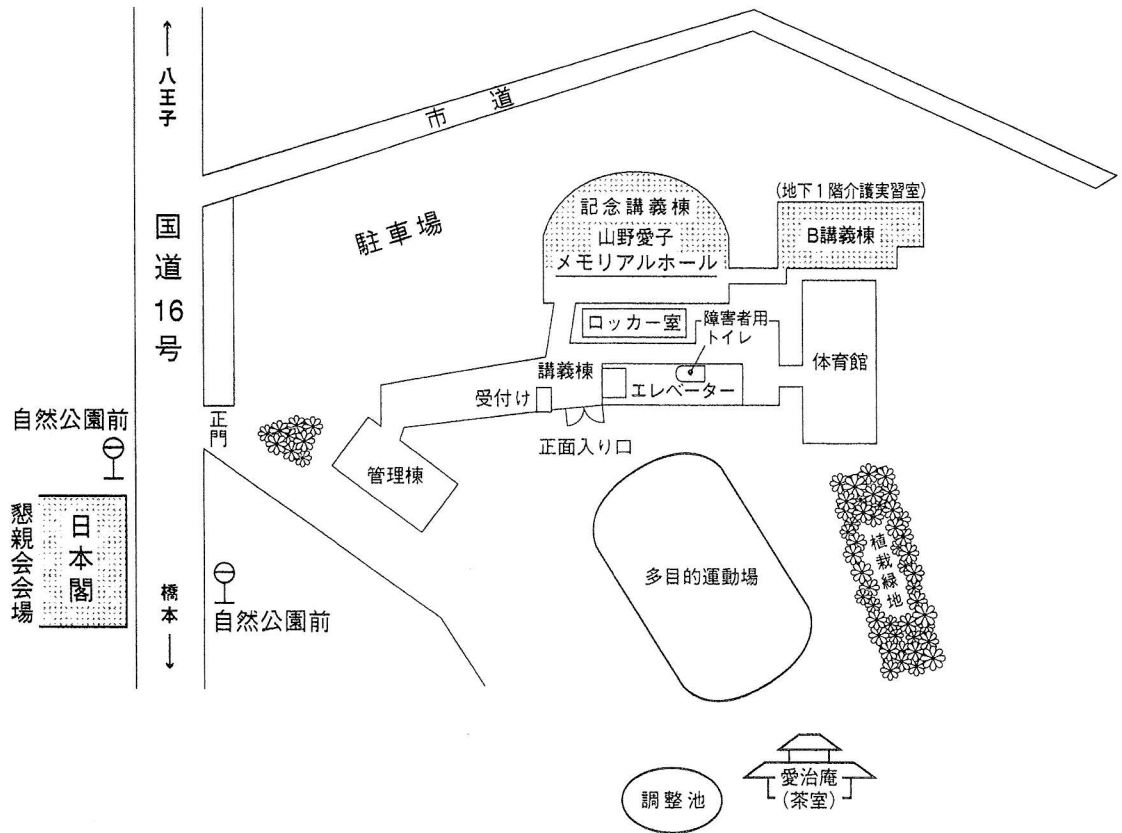
顧みますと、20世紀は、それまでの世紀に比較して、めざましい技術革新によって、人々の生活環境が飛躍的に進歩した100年でした。しかし同時に、その進歩は、地球規模の環境破壊をはじめ、人々の生活にとっても、豊かな人間生活を営む権利が侵害される事態をもたらした側面があることを見逃すことができません。今年から始まる21世紀では、人間一人ひとりの尊厳と個性をどのように守り抜くのか、ということこそが、全ての政策を立案または執行していく上での、最大の判断基準にすべきだと思います。そしてこの視点は、健康な人々だけを対象とするのではなく、高齢者や障害を持つ人々へこそ、より強く大きく注がなければならないと考えます。

21世紀の課題をこのように考えた時、山野愛子初代学長が提唱した「髪・顔・装い・精神美・健康美」の5大原則からなる「美道」を教育理念に据えて、美容教育を推進している山野美容芸術短期大学には、この「美道」の視点に立って、人々の尊厳を守り、豊かな個性を育むことができる人材を育成することが課せられた役割であると考えています。その立場から、本学は1999年4月、美容を福祉の分野でも積極的に生かすことができる人材の育成を目指して「美容福祉学科」を開設し、その目標実現に向けて、第一歩を踏み出しているところです。

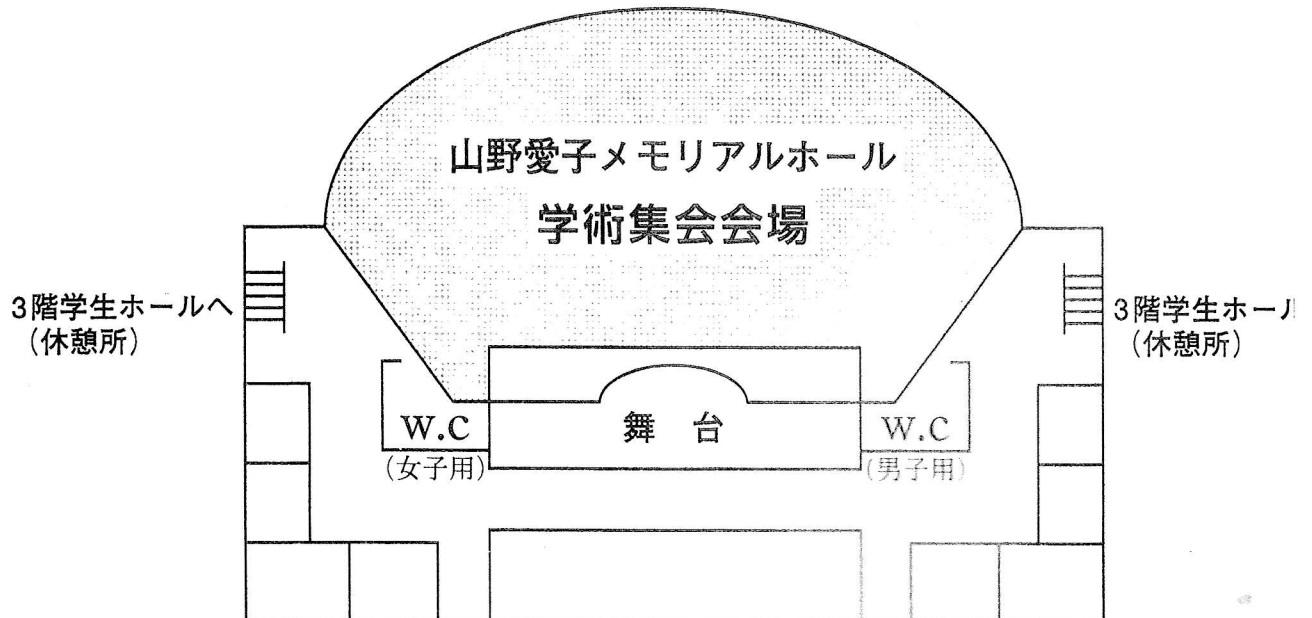
美容の持つエネルギーが高齢者や障害を持つ人々の福祉と、新しい生き甲斐の創造に貢献できる可能性は、これまでの多くの実践報告から示唆されています。しかしながら、高齢者や障害者介護の最前線では、必要性は理解できても、日々の実践でどのように具体化していくのかという点では、まだ理論的にもまた行政の取り組み姿勢の面でも、多くの課題が残されています。このような現状をリアルに分析した時、これら全ての課題について、理論的実践的な方針・対策を打ち出すことは極めて緊急を要する課題だと考えます。その意味で、日本美容福祉学会が果たす役割は重要です。21世紀を、全ての人々の尊厳と個性が守られる新しい時代とする大きな展望を持って、本学術集会がその第一歩を踏み出すことを心から期待いたします。

会場案内図

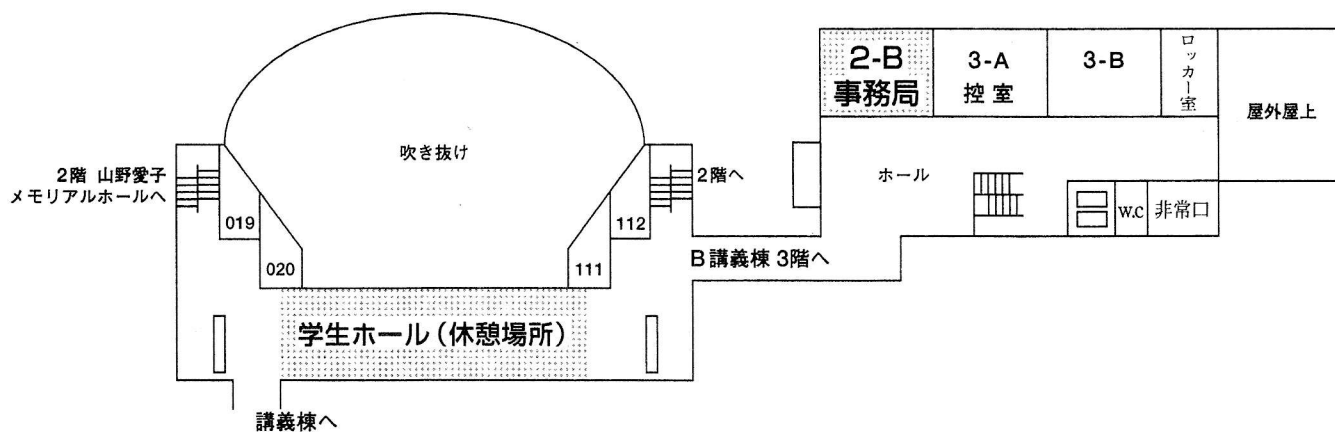
会場



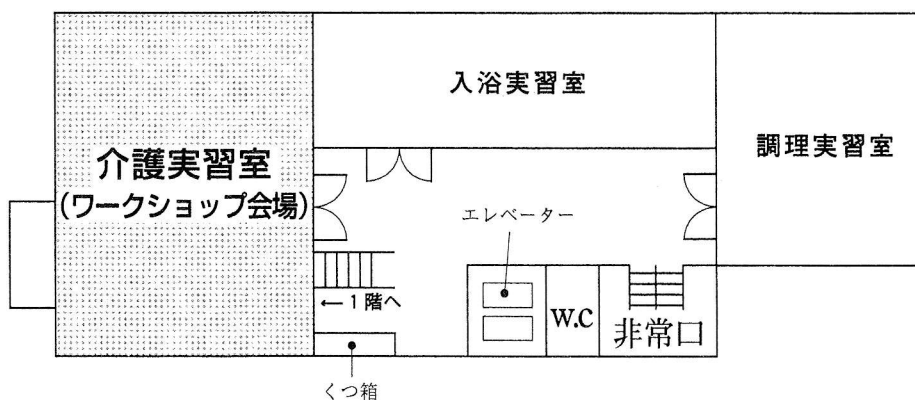
記念講義棟 2階



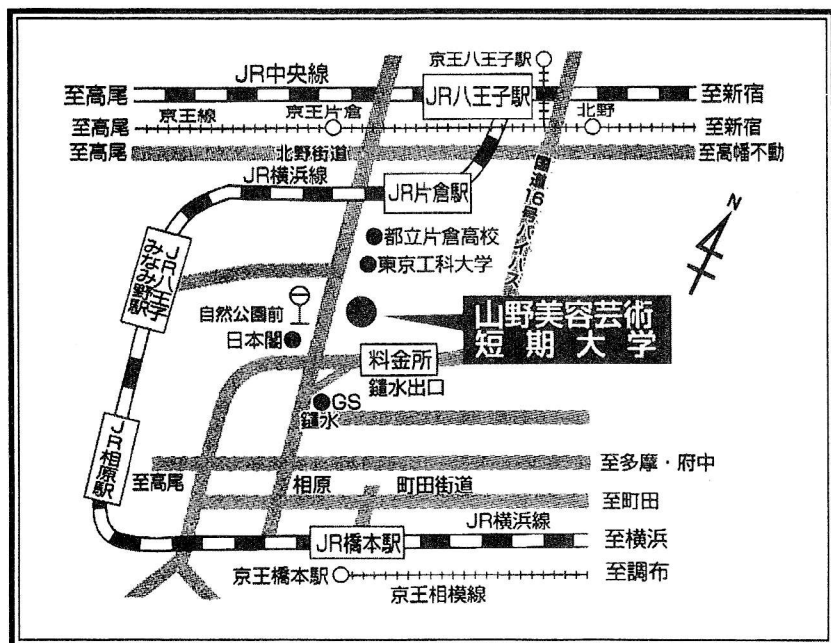
記念講義棟 3 階



B講義棟地下1階



交通案内図



- JR中央線八王子駅北口より
橋本駅行きバス20分「自然公園前」
下車徒歩1分
- JR横浜線および京王線橋本
駅北口より八王子駅行バス10分
「自然公園前」下車徒歩1分
- JR横浜線八王子みなみ野駅
より短大送迎バス7分

お 知 ら せ

□ 受 付

1. 場 所

講義棟 1 階正面入り口ホールで行います。

2. 参加手続き

1) 一般：参加申し込み票にご記入の上、参加費（1,000円）と引き換えにネームプレート（兼領収証）、抄録集等をお受け取りください。

2) 学生：参加申し込み票にご記入の上、引き換えにネームプレート、抄録集等をお受け取りください。

□ ワークショップ：講習「車イス利用者の和装着付け」 共催：日本福祉文化学会
参加ご希望の方（学生も含む）は、受付で講習費（1,000円）を添えてお申し込みください。

定員が50名ですので、お早めにお申し込みください。

* 開催時間の関係上、オプションと併せての申し込みはできません。

□ オプション：お茶室（愛治庵）見学とお点前

参加ご希望の方は、受付でお申し込みください。参加費は無料です。

定員が50名ですので、お早めにお申し込みください。

* 開催時間の関係上、ワークショップと併せての申し込みはできません。

□ 抄録集

追加で抄録集が必要な方は、1,000円で販売いたします。

受付でお求めください。

□ 記念撮影

エキシビション終了後、山野愛子メモリアルホールにて記念撮影を行います。

□ 懇親会

17時30分から、日本閣（会場案内図参照）で行います。

参加ご希望の方は、受付で懇親会費（3,000円）を添えてお申し込みください。

□ 入 場

会場への入場に際しては、必ずネームプレートをお付けください。

ネームプレートのない方は入場できません。

□ 発言者

係りの者がお席までマイクを持って参ります。

質疑、討論の発言者は「所属、氏名」を述べ、簡潔に発言してください。

□ 呼び出し

原則として行いませんが、用件は受付近くの掲示板に掲示します。

また、参加者間の連絡に掲示板をご利用ください。

□ お手洗い

山野愛子メモリアルホールの両脇にお手洗があります。

ステージ向かって左手が男性用、右手が女性用となっております。

◎車イスご利用の方は、近くの係員までお申しつけください。ご案内いたします。

□ 休憩所

記念講義棟 3 階の学生ホールが休憩所となっております。

飲み物（コーヒー、紅茶）を無料で準備しておりますので、ご利用ください。

□ 喫煙所

建物内はすべて禁煙です。

喫煙は、正面入り口を出られたところにあります喫煙所をご利用ください。

□ 関連書籍の展示販売

休憩所となっております学生ホールにて、関連書籍の展示販売を行います。

生活協同組合「東京インターカレッジコープ」のご協力により、10%引き（専門書の1部に対象外の書籍があります。）で販売いたしますのでご利用ください。

□ アンケート

今回の学術集会についてのアンケートにご協力ください。

学会の今後の活動及び次回の学術集会開催の参考とさせていただきます。

受付にて回収させていただきます。

□ 事務局

事務局員はスタッフの名札を付けております。

なお、B 講義棟 3 階の 2-B が事務局の控室となっております。

プログラム

- 大会長ご挨拶 13:00～13:05 <山野愛子メモリアルホール>
塩原 正一（山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授）
- 歓迎のご挨拶 13:05～13:10 <山野愛子メモリアルホール>
山野 正義（学校法人山野学苑理事長、山野美容芸術短期大学学長）
- 大会長講演 13:10～13:40 <山野愛子メモリアルホール>
『介護施設における「おしゃれと身だしなみ」への関心 -全国調査より-』
塩原 正一（山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授）
- シンポジウム 13:40～15:30 <山野愛子メモリアルホール>
『21世紀の高齢者・障害者と「おしゃれ」・「身だしなみ」-美容の役割は-』
装いの立場から 渡辺 聰子（山野美容芸術短期大学教授）
住生活の立場から 辻 育美（福祉住環境コーディネーター）
化粧心理の立場から 日比野 英子（山野美容芸術短期大学助教授）
福祉文化の立場から 小林 博（茨城キリスト教大学教授）
医療施設の立場から 桑田 美代子（青梅慶友病院 看護・介護開発室長）
福祉施設の立場から 江國 泰介（知的障害者更生施設 入道雲施設長）
- エキシビション 15:30～15:50 <山野愛子メモリアルホール>
『車イス利用者の和装着付け・ヘアー&メイク』
- 記念撮影 15:50～16:00 <山野愛子メモリアルホール>
- ワークショップ 16:00～17:20 <B講義棟地下1階 介護実習室>
講習『車イス利用者の和装着付け』
- オプション 16:00～17:20 <お茶室「愛治庵」>
愛治庵（お茶室）見学とお点前
- 懇親会 17:30～19:30 <日本閣>

	山野愛子メモリアルホール	B 講義棟介護実習室	お茶室「愛治庵」	日本閣
13:00	— 挨拶 —			
13:10	— 大会長講演 —			
13:40	— シンポジウム —			
15:30	— エキシビション —			
15:50	— 記念撮影 —			
16:00		— ワークショップ —	— オプション —	
17:30				— 懇親会 —

大会長講演

13:10～13:40

＜山野愛子メモリアルホール＞

介護施設における「おしゃれと身だしなみ」への関心
－全国調査より－

塩 原 正 一

（山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授）

介護施設における「おしゃれと身だしなみ」への関心 － 全国調査より －

塩原正一（山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授）

21世紀を迎え、少子・高齢現象は社会構造の変化を否応なしに伴う。わが国の65歳以上の高齢者人口は、平成11年10月1日現在2119万人（総務庁統計局人口推計月報）と総人口の16.7%を占めている。平成32（2020）年には3333万5千人（26.9%；国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口・平成9年1月推計」）と、国民の約1/4以上が高齢に達し、現在より一層の急速な高齢社会が到来すると考えられている。一方、出生数は、昭和50年（190万1440人、合計特殊出生率は1.91）以降毎年減少し続けてきたが、平成3年から増加と減少をくり返し、平成10年の出生数は120万3147人、合計特殊出生率は1.38（厚生省人口動態統計年報）と低下傾向は続いており、少子化が進行している。人口構造の変化により家族構成や社会全体の形態が多様化し、21世紀へ向けての社会保障全般の見直しが真剣に問われており、特に高齢（障害者を含む）・少子社会に対応した福祉サービスの社会づくりは国民の総意である。高齢者福祉対策としては平成2年度から11年度まで「ゴールドプラン（高齢者保健福祉推進十か年戦略）」として福祉サービスの施策を始めた。主な内容項目は ①在宅福祉推進十か年事業（ホームヘルパー人員確保、デイサービス、在宅介護支援センター設置等） ②寝たきり老人0作戦の展開 ③長寿社会福祉年金の設置 ④施設の緊急整備 ⑤高齢者の生きがい対策推進 ⑥長寿科学十か年事業推進 ⑦高齢者のための総合的な福祉施設の整備である。これらの施策をより充実させるため平成7年度より「新ゴールドプラン（高齢者保健福祉推進十か年戦略）」が現在実施されている。

少子化対策については平成12年度より「新エンゼルプラン（少子化対策推進基本方針）」に基づき子育て環境の充実、家庭や子育てに夢や希望を持つことのできる社会にしようとして多くの施策が実施されている。

障害者対策は平成8年度から14年度までの7か年計画で ○地域で共に生活するために（ノーマライゼーションの理念） ○社会的自立を促進するために ○バリアフリー化を促進するために ○生活の質（QOL）の向上を目指して ○安全な暮らしを確保するために ○心のバリアを取り除くために ○わが国にふさわしい

国際協力・国際交流を、等の視点から「障害者プラン～ノーマライゼーション7か年戦略」として精神・身体障害者等、難病を有する方々が障害のない者と同等に生活する社会を目指すノーマライゼーションの理念の下に計画の推進と実施が図られている。

いずれの施策も21世紀に訪れる少子・高齢現象の社会構造の変化に伴うものである。その目指すものは基本理念としてあらゆる人々が心身共に健康で社会生活を送ることにある。少子化の問題は個人的評価と社会的評価の背景を持つが、高齢者・障害者問題の福祉（介護）サービスは社会全体で評価・対策をする必要がある。ややもすると結果として押しつけのサービスが福祉（介護）の達成目標と解釈されては困る。高齢者や障害者はあくまでも障害のない者と同等に個として豊かでなければならない。究極の目的を設定し社会全体のそれとして、押しつけや強制は許されず、時間を有しても多様性のそれを認めるべきである。

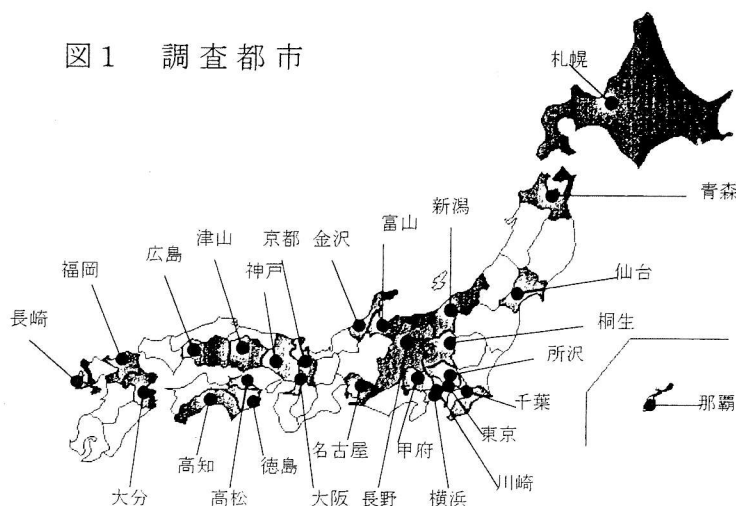
「美容福祉（学）」の目指すものは高齢者・障害者（施設利用者）および介護者（福祉・介護・保健医療の専門家、家族・地域住民、施設・教育機関）の抱えている様々な問題を科学的な方法で研究し、援助、解決することにある。そのためには既存の価値観にとらわれない新しい理論や方法論を幅広い学問分野からアプローチすることが不可欠である。

講演の主題『介護施設における「おしゃれと身だしなみ」への関心』の調査研究は施設利用者（高齢者・障害者）および介護に携わる方々が、おしゃれや身だしなみ、あるいは身ぎれいを意識する、実践することで個性を大切にした健康で豊かな社会生活を送ることができるノーマライゼーションの達成に少しでも役立つ基礎資料を得ることを目的としている。

調査方法は介護に携わる方（介護者）用、要介護者（施設利用者）用および一般の方用に3種類のアンケート用紙を準備した。平成12

(2000)年7月から13(2001)年1月の7か月間に各地の施設等を訪問し、調査研究主旨を理解いただいた施設等に依頼、配布した(留置法)。調査地域は政令指定都市を中心に北海道、東北、甲信越、関東、東京、中部北陸、関西、中国四国、九州沖縄地区、すなわち北海道から沖縄県まで全国27都道府県(図1)の62市町村、

図1 調査都市



104福祉施設、51団体である（図2）。アンケート用紙は宅配・郵送回収をした。アンケート内容は属性項目を除き3種類とも設問数24～26であり、おしゃれと身だしなみに対する関心の意識項目を主に選択回答式とした（配布資料参照）。回収数は介護者（黄色用紙）2604名、施設利用者「要介護者（ピンク用紙）」2066名、一般者（緑用紙）1407名、合計6077名である（13年2月15日現在 図3）。訪問したいずれの施設も「高齢者・障害者のおしゃれと身だしなみは必要である」と言明するが、アンケート調査研究に協力する理解と余裕はない施設、また行政（市町村の福祉課等）もあった。しかし、各施設から約4600名（回収率：介護者；73.9%、要介護者；69.6%）以上の回答が得られたことは全国の福祉施設等が「おしゃれと身だしなみ」に高い関心があると理解できる。6000名以上の資料分析から今後多くの結果が期待できる。

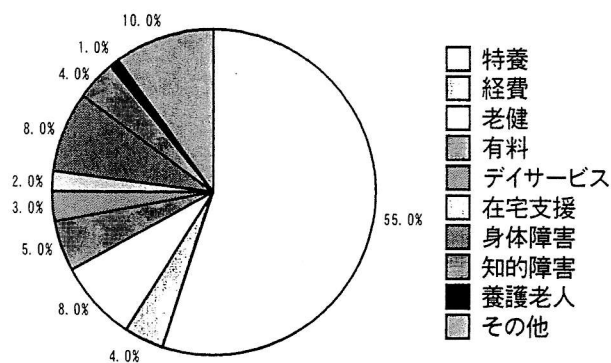


図2 施設種類別割合

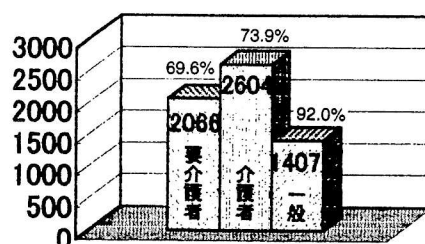


図3 調査回収数

共同研究者

斎藤春枝(美容保健学科)※

木村康一(美容保健学科)※

杉浦ゆり(美容福祉学科)※

原千恵子(美容福祉学科)※

山井理恵(美容福祉学科)※

岡田尚子(美容福祉学科学生)※

河内玲奈(美容福祉学科学生)※

※：山野美容芸術短期大学

謝辞

調査研究にご協力頂きました各施設の関係諸氏、ならびに各市町村の福祉課の方々に心から深く謝意を表します。また、兵庫県介護福祉協会の山路喜代子会長には有料老人施設等のご紹介を頂き本当に感謝しております。

シンポジウム

13:40～15:20

＜山野愛子メモリアルホール＞

座長 平尾 良雄（山野美容芸術短期大学美容福祉学科助教授）
塩原 正一（大会長）

21世紀の高齢者・障害者と「おしゃれ」・「身だしなみ」

－美容の役割は－

- ・ 装いの立場から －高齢者・障害者の衣服－
渡辺 聰子（山野美容芸術短期大学教授）
- ・ 住生活の立場から －いきいき生活できるインテリア－
辻 育美（福祉住環境コーディネーター）
- ・ 化粧心理の立場から
日比野 英子（山野美容芸術短期大学助教授）
- ・ 福祉文化の立場から
小林 博（茨城キリスト教大学教授）
- ・ 医療施設の立場から
桑田 美代子（青梅慶友病院 看護・介護開発室長）
- ・ 福祉施設の立場から
江國 泰介（知的障害者更生施設 入道雲施設長）

特別発言

森 清（本郷診療所所長）
今村 幹子（車イス利用者）

装いの立場から

—高齢者・障害者の衣服—

渡 辺 聰 子 (山野美容芸術短期大学)

はじめに

高齢者・障害者の衣服と聞くと「特別なもの」と思っている方がほとんどではないでしょうか。それは市販されている障害者用の衣服や高齢者用の衣服が特殊だったり、特殊だと思いこんでいるのではないのでしょうか。

自分や家族が高齢になって、あるいは障害をもったとき、はじめて、『特殊ではない』と自覚するのではないのでしょうか。

巷には「標準」をターゲットにした衣服が出回っています。「標準」とは何でしょう。図1、からもわかるように、多くの例がそこにあること、平均に近いことも事実です。しかしそれがすべてではありません。若い健常者でも既製服への不満は少なくありません。これからの時代、高齢人口が多く、部分をしめ、高齢や障害という事実を「特殊」と思わずに「一般的」なことだと理解することが、一番大切なことではないのでしょうか。

高齢・障害に合った被服の選択

—身体にあって、着心地がよく、すてきなデザイン—

「お肌の曲がり角」があるように、体型にも曲がり角があります。20代後半になると身長伸びも止まり、いわゆる成長期は終わります。そして、中年、高齢期に入ると体型にも様々な変化が起こってきます。

1) 高齢者の体型の特徴

- ◇身長が縮む
- ◇腰が曲がる
- ◇膝が曲がる
- ◇胸のくびれが少くなる
- ◇背中が丸くなる
- ◇下腹部が出る

など、いろいろな変化が起こります。障害・高齢者の体の変化を知った上で、動作を妨げない着やすい、着せやすい、着心地のよい、素敵な衣服がもとめられています。

しかし、体型の変化は個人差が大きく、既製服を作りにくくしている原因の一つです。特に機能障害が出てきた場合、その動き（可動域）の個人差が大きく、既製服では対応しきれない部分も多々あります。

すべてオーダーにするというのではなく、一般に市販されているもの、あるいは既に持っているものを状態に応じてリフォームすることも手軽な方法です。

2) 被服選択のための配慮

簡単に手に入れるためには既製服の購入あるいはそのリフォームを考えます。

○採寸；立位の状態で採寸することを考えがちですが、着用者の普段の姿勢（リラックスしている状態）で採寸します。腰部に注目してみると、立位と仰臥位に大きな差はありませんが、座位との間には何らかの変化が見られます。体型によってヒップの変化率は5～10%に及びます。高齢になると、座位を取ることが多いので、その姿勢に合ったものを考えたいものです。（図2）

○選択；多くは年金生活で、ある物で我慢する生活が続き、選択の機会も減少します。

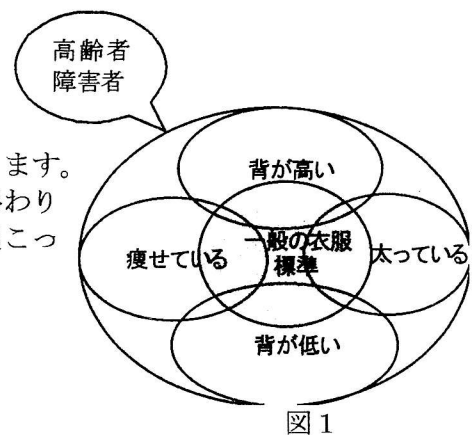


図1

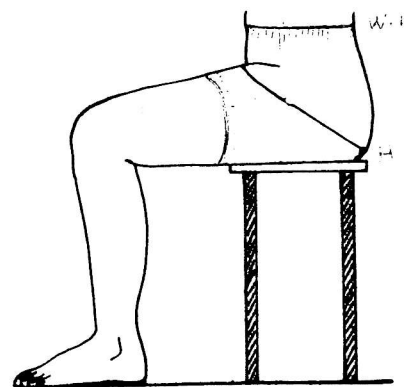


図2

介護者の立場から他人の趣向を考えることは非常に難しいことです。逆の利用者の立場に立って、衣服を着る前に選ぶ楽しみを残して欲しいと思います。「多くの中から1つ選ぶ」ことと、「選ばれた1つを押しつけられる」ことには、喜びに大きな差があります。出来る限り本人に選択させて欲しいものです。

一般的にはデザイン、カラー、サイズ、素材、価格などが選択の条件になりますが、高齢・障害の場合は着脱・着心地・排泄について観察が必要です。

★着脱；半身マヒの場合など袖通しが楽に出来るか、ボタンはつまみやすいか、かぶり型がよいか、前あきがよいか。

★着心地；背幅が十分にあり動作を妨げないか。パンツの場合、ウエスト、ヒップのゆとりはどうか。スカートやワンピースの裏地が滑りすぎないか。（滑りの程度で、姿勢を保つことが難しくなる）

★排泄；衰えている手指の力でパンツを降ろすことが出来るか、車椅子に腰掛けたまま、前あきのファスナーが尿瓶を使うことが出来るだけ十分開くかどうか。ファスナーの持ち手はつまみやすいか、など細部にわたりチェックが必要です。

○リフォーム；求める商品が全くないわけではありませんが、見つけにくいのが現状です。求めるものがあつたら、行きつけにすることがわがままの言える条件の一つです。体型が崩れて、上下のサイズが合わなかったり、背中が丸くなり、後ろ丈が足りないなど、体型に変化が起きたら、リフォームを考えます。しかし直しの部分が非常に多くなり、買ったものの値段を大きく上回割るようでしたらオーダーを考えます。

また、障害者の場合は、車椅子で入れるお店も多くなってきましたが、リフォームというと、『障害者』、『車椅子使用者』というだけで『何処を直して良いか判らない』と断られる例が少なくありません。

理由として、①マニュアル通りのリフォームではない。

②試行錯誤するので時間がかかる。

③脳性マヒなどの場合、言葉が理解しにくい。

などの理由で拒否される場合が少なくありません。

多くの場合はわずかなリフォームで既製服が着られるようになります。リフォームは1度うまくいかなくても、その旨をはっきりリフォームした人に伝えることが大切です。お互いに試行錯誤を繰り返す場合もありますが、2度目はずっと楽にやって貰えるからです。遠慮すると、いつまで経っても自分の欲しいものが手に入りません。買い物上手な人はやはり努力が必要です。健常者も身障者も若い人もお年寄りも皆同じです。わがままが言える関係を作ることです。

3) 素材の条件

基本的には健常者の選択と同じですが、高齢者の場合新陳代謝も衰え、皮膚乾燥がおき（老人性皮膚乾燥症など）、皮膚にかゆみを生じる場合があるので、皮膚を刺激しない木綿を中心に素材を選びます。

レインコート、防水シート、おむつカバーなどに用いられている透湿性防水素材（ゴアテックス、エントラントなど）は蒸れを防ぎます。その他、洗濯や乾燥に耐えられる素材であることも大切な条件の一つです。老人ホームなどの施設では、感染症の防止も兼ね、高温乾燥するところも多く、そのために衣服の損傷が激しいところが少なくありません。『傷むから安価な商品を買う』ということで、なかなか良い商品が消費者の手元に届かないのではないのでしょうか。

おわりに

高齢者・障害者の衣服を考えるにあたっては、衣服に携わる人、介護に携わる人たちが利用者の身体を理解し、生活を知ることがまず第1の条件です。

素敵な衣服を着たいという気持ちが、誰かに会いたい、外出したいという気持ちに変化していきます。衣服は化粧や髪の手入れとともに人の気持ちに大きな影響を与えます。私たちはいろいろな角度から、高齢者・障害者の生活の応援をしていきたいと思っております。

住生活の立場から

ーいきいき生活できるインテリアー
辻 育美（一級建築士・福祉住環境コーディネーター）

近年、住まいの重要性が見直されるとともに、その質が問われるようになってきている。住戸の規模も設備も格段に向上してきたが、住まいのデザインの分野ではまだまだ改善の余地がある。

住まいは人間の行動や心理に大きく影響を与えるものである。とくに、高齢期は在宅時間が長くなる傾向にあるので、住まいが”いきいきと生活できる場”であるかどうかは、より重要な意味を持つだろう。

高齢期における住まいの整え方のポイントは、

- 1.安全で自立を支える住まい
- 2.健康的で快適な住まい
- 3.楽しく美しい住まい

であると考ええる。

しかし、3.について、私たちは、”住生活を楽しむ”ことを贅沢としたり、古くて狭いから素敵なインテリアなんて無理、と最初からあきらめているところがありはしないだろうか。

たしかに”楽しく美しく住む”ためには、空間を人間の行為・生理・心理に適するよう、総合的にデザインすることが重要である。（図1）

が、それは、決して大がかりなことばかりではない。室内のインテリアは、手軽に、好みや個性を表現し、変化を楽しむことができる。

住まいを”衣服に次ぐ身近な環境”という視点でとらえ、衣服やお化粧で身体を装おうと同じように”住まいの身だしなみ”を整え、もっと積極的に”住まいのおしゃれ”を楽しみたい。

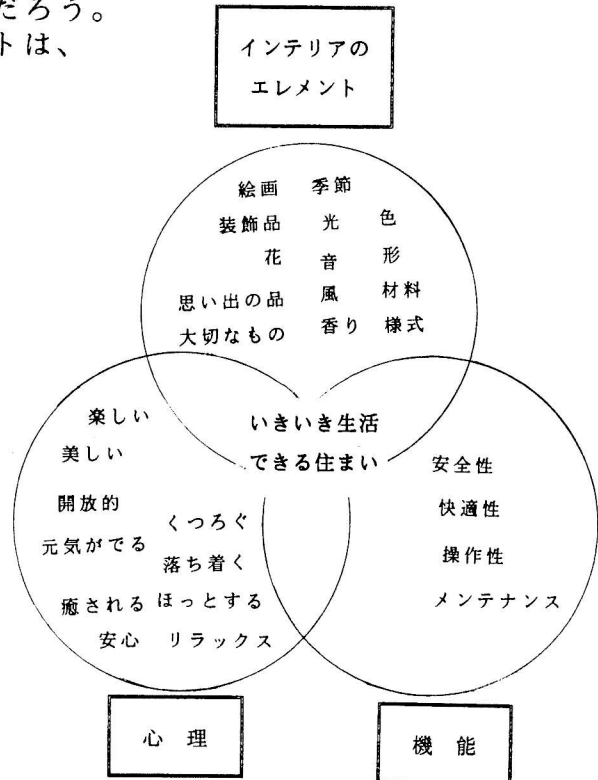


図1 高齢期の住まいのインテリアの考え方

住まいの身だしなみ

①動きやすさ

- ・移動しやすく、作業しやすいスペースの確保
 - ー大型家具（ベッドやタンス等）の配置を、動線・手順に適した配置に
 - ー福祉機器（車いすや移動用リフト等）利用は、十分なスペースを
- ・転倒予防ー床の段差解消・滑りにくい床材を使用・床上の整理整頓

②使いやすさ

- ・身体機能の低下に適した設備類の利用（スイッチ・把手・水栓金具・家電製品等）
 - ー軽い・大きい・操作しやすい・安全
- ・コンセントは十分な数を、動作が楽に行える位置に設置

③ すっきりかたづけ

- ・室内の整理整頓と上手な収納ー 美観と作業効率と事故予防
- ・収納の基本ー頻繁に使う物は”近く”、あまり使わないものは”遠く”に
 - ー集中収納と分散収納を組み合わせる
 - ー動作順に取り出しやすい場所に置く（着替え・タオル・介護用品等）
- ・あらかじめ収納スペースを確保（ホータブルトイレ等）
- ・家具調の製品やカバーの利用（ベッド・ポータブルトイレ等）

④ 清潔

- ・日常の清掃や定期点検で、住まいを衛生的に維持
- ・臭気や結露の防止のためにも十分な換気
- ・掃除しやすい材質や形状の製品を選択（壁紙・床材・家具・家電製品等）
- ・排泄用具等の取扱いや保管場所を検討
- ・ゴミやリサイクル品の取扱いや保管場所を検討

住まいのおしゃれ

① 明るさ

- ・採光と照明で調節ー 行為にあった十分な照度 直接のまぶしさは避ける
- ・単調にならないような工夫ー 白熱灯・間接照明・スタンドなど
- ・メンテナンスを考えた取付けー 電球交換 カバーの掃除のしやすさ

② 色彩

- ・色彩の心理効果を活用ー 安定感・落ち着き・広がり・明るさ
- ・天井・壁・床や大型家具などは調和した統一感を、鮮やかな色・好きな色をカーテン・小物などでアクセントに
- ・赤・橙系の色や、コントラストをはっきりさせた使い方で識別しやすく（手すり・把手・スイッチ・危険な箇所等の認知のため）

③ うるおい

自然を窓から室内にー四季折々の景色・天候の変化・光・風・鳥の鳴き声
心の癒しーペットや草花の生育
暖かい材質感ー天然素材やファブリック製品
生活の彩りー観葉植物・花・絵画・装飾品
気分転換ー音楽・香り・自然
生活の継続感や安心感ー使い慣れた家具・思い出の品々、写真、手作り品

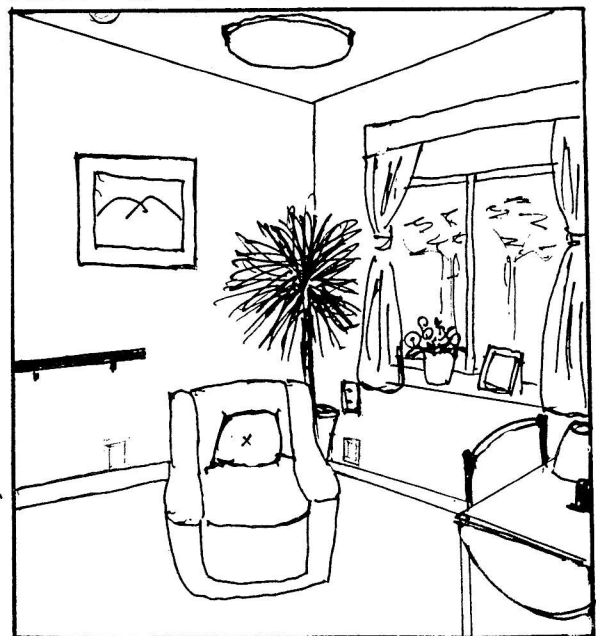
おわりに

今後、ますます住まいの役割は大きくなるだろう。住まいの中で自らの意志にもとづいた積極的な生活を営むことは、ADLの維持・向上に効果をもたらし、活動の意欲を生み出すに違いない。

インテリアデザインの、心理的効果を再認識し、材料・色彩・形状等を総合的にデザインし、安全性・快適性等の機能との両立を図りたい。

個人の歴史や好みを大切にしながら、”いきいきと生活できる”ことを目標に、居心地のよい住まいを整えていきたいものである。

あなたも できることから始めてみてください！



化粧心理の立場から

日比野 英子 (山野美容芸術短期大学 美容福祉学科)

化粧は、古くから種々の文化において、医療行為や呪術的行為として行われていたり、権力者の勢力を誇示する手段としても用いられていたようであるが、現代では自己表現や社会的マナー、魅力的なコミュニケーションの手段として、世界中で日常的に行われている生活の要素であると考えられる。しかし化粧の意味・効用を学術的研究の俎上に載せたのは比較的最近で、心理学では 1980 年代からである。以下に、これまでの研究から確認されてきたことの振り返りと、高齢者・障害者を対象とした実践的研究の手応えについて述べる。

1) 化粧の心理学的効果 —— 自己への効用と対人的効用 ——

化粧行為の動機は「他者への印象管理」と「自分の欠点の補い」とであると報告されている(松井・山本・岩男、1983)。実際に同一人物の素顔と化粧顔を他者に評価して貰うと、化粧顔のほうがより女性的で魅力的であり、また誠実で社交的で自信があり努力する人と認知されることがわかった(グラハムとファーンハム、1981)。

化粧にはこのような対人的効果があるが、女性にとって化粧はそれ自体楽しみであったり、気分を変える手段となる対自己的効果も認められる。20 歳代の女性に、素顔・自己化粧・専門家による化粧という 3 つの顔の条件下で、自分の感情状態について質問紙に答えてもらったところ、後者ほど自信や満足感が高まり、不安は低くなった(余語ら、1990)。また、同じ条件で声の高さを測定したところ、後者ほど高くなっており、化粧は快い緊張感をもたらすことが示唆された。また、化粧による気分の変化には年齢差があり、20 歳代の女性は化粧をすると積極性が高まり、50 歳代の女性はリラックスする人が多いことが報告されている(宇山・鈴木・互、1990)。化粧には、覚醒度を上昇させる効果と、その反対のリラクセーション効果の双方があると考えられる。

以上のような化粧の対自己効果と対人的効果について、大坊(1996)は図 1 のように表している。また、松井(1986)は化粧の持つ作用が如何に心の健康に貢献しているかを図 2 のように総括している。

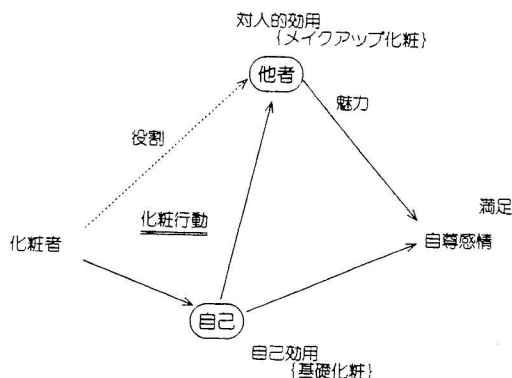


図1 化粧の多「効用」 —— 満足のプロセス (大坊、1996)

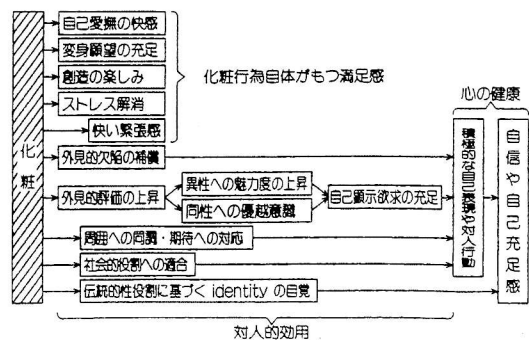


図2 化粧の心理的効用 (松井、1986)

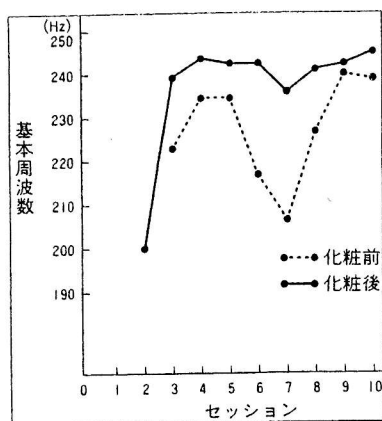


図3 精神分裂病女性の
化粧前後の声の周波数 (Hibino ら, 1990)

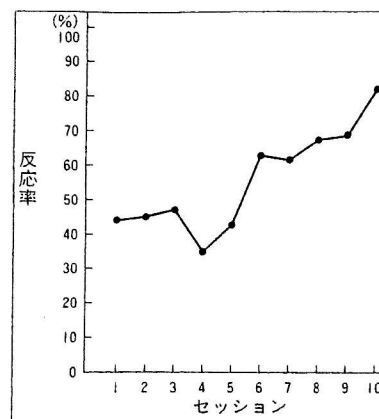


図4 精神分裂病女性の
問いかけに対する反応率 (Hibino ら, 1990)

2) 高齢者・障害者を対象とした化粧の心理学的研究

Hibino ら (1990) は、情動の活性化を目的として精神障害者への化粧施術を継続的 (週 1 回、全 10 回) に行う実験的研究を試みた。図 3・図 4 は、ある精神分裂病患者の女性における化粧の心理的効果を表している。この女性も化粧することによって、声が高くなり (快緊張)、問いかけに対する返答率も次第に高まった (社会的積極性の増大)。浜・浅井 (1992)、伊波・浜 (1993) は高齢女性を対象にほぼ同様の化粧研究を行っているが、これらにおいても化粧の覚醒効果とリラクセーション効果が見られた。多弁・多動・徘徊等の落ち着きのない軽度痴呆症の女性は、表情が穏やかになり、一カ所にとどまっていたりするようになり、整容に関心を示す言動が増加した。その一方で、うつ状態の女性は、軽い家事をするようになったり、外出するようになったという変化が見られた。

3) 研究から実践へ

化粧によって肌をいたわり慈しむことは、触覚的心地よさを生じさせることにとどまらず、特に対象が高齢女性の場合は、その存在を認め、労い、尊重することにつながると報告者は考えている。化粧は他の活動に比べてかなり受動的参加から開始でき、数回の参加で自尊感情を喚起されると、自ずと他者の反応にも関心が高まり社会性を促すことにもなるのであろう。他者からの暖かい賛辞が常であればなおさら効果的である。もう一つ忘れてはならないことは、現代の高齢女性にとっては、化粧は「大人の女性」の象徴ということである。化粧をすると、一時的であっても、大人の女性としてコントロールの効いた、その場にふさわしい態度・行動を採ろうとなさる傾向が見受けられる。人によっては、精神的な自立の一つの支えになる可能性も窺える。

以上のような心理的効果を持つ化粧を、高齢者や障害者の生活の中に、如何に取り入れて行くのが今の課題の一つである。報告者は現在も数カ所の老人ホームで化粧の実践を行い、その効果の検討を続けている。これまでの経験から、その効果を左右する要因として、地域性、施設内の人間関係、介護職員の意識 (理解)、利用者の状態 (生活歴、ADL、痴呆の有無等) が考えられるが、最も基本的で大きな要因は、実際に利用者に直接対応される職員の方の意識・考えであると痛感している。学術集会当日は忌憚のないご意見をいただけることを期待している。

福祉文化の立場から

小林 博（茨城キリスト教大学）

「福祉文化」という言葉は、まだ耳なれないかもしれない。が、これからの福祉あるいは福祉社会のあり方を考えるうえで、とても重要な意味を持っている。

日本に限らずヨーロッパ先進国でも、福祉はもともと貧乏人や浮浪者など社会の「落ちこぼれ」とされた特別の人たちを救済する制度として行われて来た。それが第二次世界大戦以後の民主・平等・人権思想の拡充や経済発展を背景として、福祉は決して限られた人たちだけのものではない。国民誰もが必要に応じて、いつでも恩恵に浴せる普遍的なものであるべきだ、との考え方でとらえられるようになった。

その考え方の延長上に「福祉文化」の概念がある。人々の暮らしに身近なものとなった福祉は、生活支援としての福祉であると同時に、暮らしを豊かにする文化としての側面も併せ持ち、さまざまな文化活動とも協同する創造的、実践的なものでなければならない、という考え方だ。これを簡潔に表現するなら「福祉の文化化」である。

かつてミュージカルの大スターだった宮城まり子さんが、知的障害者のための施設を静岡県下につくり、そこでこどもたちに絵を描き、歌をうたう喜びを教え、その成果が国際的にも高く評価されているのは有名である。まさに「福祉の文化化」である。

一方、「福祉の文化化」とは対称の「文化の福祉化」も、福祉文化の重要な考え方として位置づけている。日本で文化といえは、主に美術や音楽、映画・演劇などの芸術文化を意味し、文化活動といえは専門の作家による創作、あるいはそれらの芸術鑑賞であり、その文化度は作品のいわゆる芸術性や技術性によって評価されてきた。

しかし、文化は本来、生活に根ざすもっと幅ひろい活動である。人々の暮らしを豊かに彩り、生きる喜びを高めるものでなければならない。それを決

定づけるのは、文化の中にどれだけ福祉のところが息づいているのか、の評価である。芸術性といった側面からだけでなく、福祉の視点から文化をとらえ直す。それが「文化の福祉化」のねらいなのである。

欧米の老人施設では、入居している高齢者たちが自分の好きな衣服を着、頬には紅をさし、ときにはイヤリングやネックレスで身を飾ることが、ごく当たり前のこととして行われている。そのことが高齢者たちをいきいきとさせる大きな原動力となっている。「装い」の文化を福祉の視点からとらえ直し、現場に生かした実践である。

高齢者や障害者のQOL向上に向けて、装いや美容がどのような貢献をできるのか、その研究を体系化するための「日本美容福祉学会」がこのほど山野美容芸術短期大学を中心に発足し、その第一回学術集会が催されたことは大変に意義深いことであり、心から敬意を表したい。ついでに申し上げれば、福祉文化の可能性を学問としてさぐるため「日本福祉文化学会」は1989年7月に発足、個人会員約500名、団体会員約30を擁している。

かつてイギリスの首相 W・チャーチルは、「ゆりかごから墓場まで」の政治理想を語る言葉として「ひとつの国が真の文化国家であるかどうかは、福祉がどれだけ充実して行われているか、にかかっている」という主旨のことを述べた。「福祉＝文化」の原点的発想である。

しかし福祉が文化であるためには、満たさなければならない根元的要件がある。それをいくつかのキーワードで示せば、人間の生命や尊厳、基本的人権を尊重しているものであるか、平等とかノーマライゼーションの思想に即したものであるか、自然や環境破壊を招くものでないか、総じていえば「ヒューマニズム」の精神に基づいているかどうか、ということであろう。

たとえば、病院や施設で痴呆性老人の事故防止を理由にしばしば行われている「抑制」は、果たして福祉的实践なのだろうか。五体満足なこどもの出産をのぞむあまり、親が「出産前診断」を行うのは、生命の貴さ、あるいは差別という問題として考えるとき、果たして正しい選択なのだろうか。福祉を文化にするためには、深い人間的な思索が求められる。

医療施設の立場から

桑田美代子（青梅慶友病院）

1. 青梅慶友病院の概要

1) 入院患者の現状（平成13年2月1日）

- ・入院患者総数780名
内訳 男性131名(17%) 女性649名(83%)
- ・平均年齢 86.7歳（男性84.9歳 女性87歳）
100歳以上 男性2名 女性16名
- ・入院時平均年齢 84.9歳
- ・退院時平均年齢 88.2歳
- ・平均在院期間 4年
- ・入院主病名別構成
痴呆性疾患29% 身体的疾患23% 痴呆性疾患と身体的合併症48%
- ・退院（H12.2.1～13.1.31）247名
軽快者35名 転院者49名 死亡者163名

2) 運営指針

【理 念】

- ・ 老後の安心と輝きを創造する

【目 標】

新しい“医療・介護”の仕組みをつくり、高齢者の生活の質の向上に奉仕する

【当院の役割】

- ・ 高齢者の心身の特性を十分ふまえた医療の展開
- ・ 残存機能の活用による生活の再構築
- ・ 潤いのある、香り高い生活の実現
- ・ 大往生の創造
- ・ 在宅ケアの支援

【展開の実際】

- ・ 自立度を高めるための援助
- ・ 尊厳性の確保
- ・ 個別対応
- ・ 選択肢の多いサービス
- ・ 院内生活の家庭化
- ・ 家族との連携

2. “潤いのある、香り高い生活の実現” に向けての取り組み

1) “生活の場” としての環境作り

- ・ 3 K (臭い・汚い・暗い) の打破

- ・ 家庭的な雰囲気作り

2) 着替えの導入

- ・ 生活にメリハリをつける・・・病衣から洋服へ

- ・ 個別性の尊重

3) 「身だしなみ」の徹底

- ・ 基本的 (排泄・清潔) ケアの徹底

- ・ 整容 (更衣・整髪・目拭き・髭剃り) の徹底

4) 「身だしなみ」としての化粧・装飾品

- ・ 女性の嗜みとしての化粧及び装飾品

- ・ 美容室の設置

5) 「おしゃれ」をする場の提供

- ・ 日常生活の活性化

- ・ 余暇活動の支援・・・院内でのイベントの開催

6) 寝姿の美しさ

- ・ 「慶友ウェア」の開発

寝たきり患者用・・・バックオープンタイプネグリジェの開発

3. 入院患者に影響をもたらす、スタッフの「おしゃれ」・「身だしなみ」

- ・ 最も重要な環境要因としてのスタッフ

- ・ ケアを提供する側のマナー

福祉施設の立場から

江國 泰介（知的障害者更生施設 入道雲）

はじめに

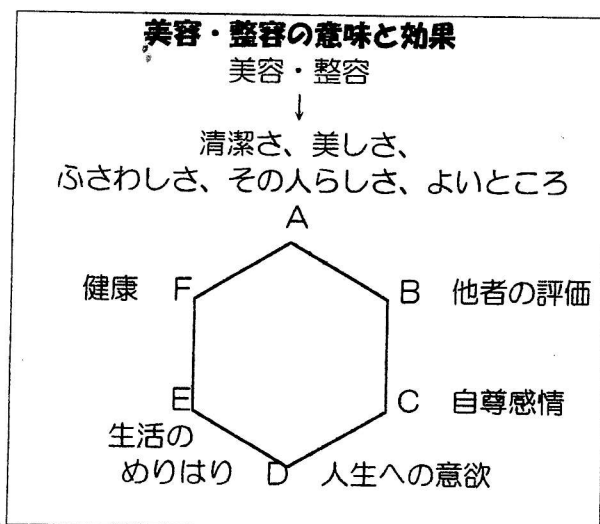
近年、わが国においてもノーマライゼーションの考え方が浸透し、介護・援助が必要な障害のある方や高齢者に関わる国の施策も、社会の意識も、大きく変化してきている。

とはいえ、①知的な障害のある方に対する社会の意識 ②要介護状況にある方の在宅や入所生活施設での生活状況——の2点については、人として尊重し人間らしい暮らしを支えるというレベルにはまだまだ多くの距離がある状況である。「美容福祉」という発想は、食事・排泄・入浴等「生活必需活動」を支えるというこれまでの福祉サービスのレベルを越えて、「美容」というキーワードに込められた人間らしい暮らしの方向性を探るとともに、これを支える知識と技術を深めようとする発想であり、福祉サービスのレベル向上へのエンジンとなり得ると考えている。

いま改めて、生活施設で暮らす方を人として尊重し、その生活を人間らしい暮らしへと変えていきたい——そういう志をもって、福祉従事者仲間や利用者の方々とともに傾けてきた過去から現在への実践を振り返るとともに、その歩みの道程に「美容福祉」を位置付けてみたい。

1、美容・整容のもつ意味と効果

清潔さ、美しさを守り高める営みとしての美容・整容は①「ふさわしさ」、②「その人らしさ」、③その人のよいところを引き出す——の3点を人にもたらすものである。（そして、この3点は、美容・整容に関わる介護・援助を行なう際の基本姿勢として求められることであるとともに、さらに施設介護・援助全般において求められる基本姿勢でもあることをおさえたい。）



こうした美容・整容は、他者からの評価、自尊感情、人生への意欲を高め、生活にめりはりをつけ、そうしたことが心身の健康を高めるという意味と効果をもっている。（左図）

2、施設の暮らし——その改革の歩み

入所生活施設の生活を人間らしい暮らしへと変えていく為の施設改革の歩みを、4つの段階に分けて整理し、その中でめざそうとしてきたことが「他者からの評価と、自尊感情、人生の意欲を高め、生活にめりはりをつけ、心身の健康を高める」と美容・整容の意味・効果と重なることを示したい。

①集団性を持った中での生活の改善：少人数化（施設全体・一生活単位・一居室、外出・食事・入浴の1箇所1回）、食事・入浴の改善、仕事と余暇や日常と

「晴れの日」等のリズムのある暮らし等の改善をすすめた。リズムのある暮らしの中で、晴れ着や化粧の必要性が出てきた。

②集団生活から個を大切に生活への改善：個室化、集団「日課」の廃止＝個人のペースの尊重へ、衣類の共用・まとめ買いから希望に応じた購入へ等の改善をすすめた。

③施設内の生活から地域に開かれた生活への改善：「消費者」としての外出や旅行の拡大、施設内理容から地域の理容店・美容院の利用へ、席＝籍の確保としての日中の活動、余暇活動などの外部化、進路開発の取り組みによる施設退所＝グループホーム等への移行の促進、ボランティアの導入など地域に開かれた生活への改善をすすめる中で、美容・整容・服装への心配りがごく当たり前のこととなってきた。

④施設主導の生活から利用者主体の施設の改善：生活の改善は、対人援助関係における本人主体への転換が伴わないと、施設を「シャントリア輝く収容所」にするだけになってしまう。呼称（呼捨てや「ばあさん」から「〇〇さん」）、拘束・体罰・ネグレクト等人権・権利擁護への着目、本人参加・自己決定・自己選択への着目＝環境と自己に対する自己操作性の拡大、施設を利用される方のプライド＝自尊感情への着目等利用者主体への転換をすすめてきた。

3. これからの施設における介護・援助

以上の歩みの上に立って、これからの介護、援助は、食事・入浴・排泄など“生活必需活動”についてやればよいという姿勢から、以下の3点の発展的方向をもった姿勢への転換が求められている。

①ひとりの人として大切に作る姿勢

②文化的な潤いのある暮らしを大切に作る姿勢：入浴⇒「少人数で夕刻にのんびり毎日」、食事⇒「暖かくておいしい食事をいい食器と雰囲気」（適時・適温・文化・選択・参加）、着脱⇒「何か適当に着せればよいのではなく、TPOにふさわしい服をていねいに着せて差し上げる」

③“生活必需活動”を超えたサービスを進める姿勢：化粧や髪や服装に関わる美容・整容、日々の言葉掛け・傾聴、外出、行事、日中の活動、動物との触れ合い

4. 生活施設における美容・整容

上のようになると、「寝かせたきり、着せたきり、化粧っ気なし、髪は一律ショートカット」という施設と、「朝にはベッドから車椅子。寝間着からTPOにあった服に着替え、お化粧・髪結いもお手伝い、髪形・髪色も個性的に…」という施設ではその暮らし・人生が大きくちがってくる。

そのことを踏まえた上で、生活施設での美容・整容に関わる具体的な介護・援助とその課題について紹介する。①朝の着替えの介助：本人希望の服を、②朝の洗面、化粧、整髪、髭そり、③歯磨・入れ歯洗浄、口臭予防の介助、④入浴・清拭・体臭予防：希望のシャンプー・リンス・あかすり、入浴後のドライヤー、化粧水、飲み物、⑤清潔：汗、鼻水、目やに、爪切り、耳垢、⑥理容店・美容院の利用、⑦晴れの日（行事・慶事・外出、服装・髪型・化粧、援助者のよそおい）、⑧おしゃれそのもの

美しき人生を支えるために

	清潔さ → 美しさ・ふさわしさ・その人らしさ・健康さ
環境	掃除 → インテリア・→ 自分の家具
からだ	入浴 → エステ・無駄毛そり ダイエット
髪	洗髪 → 朝のセット 散髪・カット → 美容・髪形・かつら 髪染め
顔	洗顔・髭 → 化粧 → 希望の品、色など
歯	歯磨、入れ歯洗浄 → 入れ歯を作る 口臭予防
爪	爪切り → マニキュア・ネイルケア
耳	耳垢取り → 耳毛取り
鼻	鼻かみ → 鼻毛取り
眼	目やに → 取り → 度の合った眼鏡 素敵なフレーム 眉毛、まつげ、アイシャドー
服靴 服飾品	寒暖配慮 → おしゃれ・TPO配慮 → 髪・化粧・服のトータルの配慮 着脱介助 → 購入援助・着付け 洗濯 → 傷めない配慮（ドライ）

の楽しみ、⑨おしゃれに関わる買い物の楽しみと援助（化粧品、服、靴）、⑩化粧品等の安全への配慮、⑪美しき人生を支えるために（左表）：予算・人員に負けることなく一小さな配慮の積み上げとボランティア＝外部の力の活用を

おわりに

加齢により社会の中での役割が限定されてくればくるほど、自尊心やアイデンティティーを守るひとつの自己主張、自己表現として化粧や髪や服装は重要な役割を果たすようになる。

こうしたことが理解でき、介護をする高齢者や障害者の方々の化粧や髪や服装にこまやかな気遣いのできる援助者として、おしゃれな若者が知識・技術・感性を豊かに磨きながら、いい仕事を積み上げていってくれることを心から期待したい。さらに、福祉の仕事は、クリエイティブな発想に立って、いろいろなアイデアを出していけば、奥が深くておもしろいのだということを感じてくれることを心から期待するとともに、「美容福祉」の発想はそうしたことを感じさせていく役割を果たせるのではないかと考えている。

エキシビション

15:30～15:50

<山野愛子メモリアルホール>

車イス利用者の和装着付け・ヘアー & メイク

渡辺聰子・新藤愛子・河野誠二
青木和子・時田真澄・他
(山野美容芸術短期大学)

「着たいものを着る」それは当然のことですが、高齢になったり、障害をもつことにより、思うように着脱できなくなると、社会生活にも若干の影響がでてくるのではないのでしょうか。そこで、自分を表現する手段の一つである着装に注目してみました。

我が国には「きもの」という民族衣装がありますが、洋服中心となった現在、和装は「簡単に着られない」と思う人が少なくありません。きものは洋服に比較して、袖付けが大きいために腕を通しやすく、身体の動きに対しても十分な余裕があります。サイズも幅広く、着付けも本人の好みで帯を窮屈に締めるものから、ゆったりとくつろいで締めるものまで幅広く着用されています。しかし、加齢や下肢障害で立つことが思うようにできなくなると、「きもの」を着ることをあきらめてしまっているのが現状ではないのでしょうか。

成人式に振り袖が着られない、娘・孫の結婚式に留め袖が着られないという話を時々耳にします。可能な限り、「着たいものを着られる」ようにしたいと思っています。立てない方を両サイドから支えなければ着付けられないのでしょうか。寝巻きは寝た状態で着せることができます。同様にきものは寝た状態で着付けることはできないのでしょうか。また、腰掛けたままで着付けることはできないのでしょうか。

まだまだ、障害の程度によるきものの種類など、研究の余地を多く残してはおりますが、「きもの」を「着られない」と思うことは本当に残念なことです。このエキシビションは、固定観念にとらわれない着付けを皆様にご覧いただき、多くの方々にきものを身近なものに考えていただきたく、計画いたしました。さらに、障害を持っていても、きものや帯を切らずに、長着のまま着付けができることも、ご披露したく思っております。

また、着付けの際には、ヘアーやメイクも大切な要素となります。併せてご覧いただければ幸いです。

ワークショップ

共催：日本福祉文化学会

16:00～17:20

< B 講義棟地下 1 階 介護実習室 >

講習：車イス利用者の和装着付け

渡辺聰子・青木和子・着付け研究会
(山野美容芸術短期大学)

エキシビションでご覧いただいた着付けを実際に体験していただきます。

車イスで生活をされている方々には、①つかまり立ちができる方、②自分で移乗できる方、③介助が必要な方（リフトで移乗する方も含まれます）など様々なケースがあります。このワークショップでは、はじめに寝た状態での着付け、リフトでの移乗など、車イスへの介助をプラスした着付けをデモンストレーションいたします。その後 3 人一組になり、利用者・介助者それぞれの立場からの着付けを体験していただきます。

車イス利用者の着付けには、たび・ぞうり、及び襦袢などの下着類だけでなく、すそ線の決め方、お端折の整え方、帯の作り方・締め方など、一般的な着付けと異なる部分が多少あります。しかし、最も大切なポイントは、その方の状態を把握し、可能な方法を考えることだと思います。長着のまま着付けることができれば、振り袖や留め袖を多くのサンプルから、自分の着たいものを選ぶことが可能となります。自分の着たいものを選ぶ、という当たり前のことがかなえられるわけです。

さらに和服は身幅が広く、袖付けが大きく仕立てられている分、便利な点があります。バスローブや医療用の寝巻きに多く使われていることも、その理由ではないでしょうか。

着付けは難しいというイメージがありますが、ポイントさえ把握すれば比較的容易にできることを、体験を通して理解していただければと思っております。また、このワークショップが、これからの高齢者や障害者の豊かな衣生活を一緒に考えていくきっかけとなることを願っております。

きもの、着付け用具等はこちらで用意いたします。

着付けの知識や技術を持っている必要はありません。気軽にご参加ください。

講習費：1000円

申込み：受付にて、講習費を添えてお申し込みください。

定 員：先着 50 名

※介護実習室は土足厳禁ですので、スリッパにおはきかえください。

第1回日本美容福祉学会学術集会運営委員会名簿

<大会長>

塩原 正一 山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授

<事務局長>

木村 康一 山野美容芸術短期大学美容保健学科助教授

<副事務局長>

杉浦 ゆり 山野美容芸術短期大学美容福祉学科講師

<運営委員>

渡辺 聰子	山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授
大須賀万里子	山野美容芸術短期大学美容芸術学科教授
原 千恵子	山野美容芸術短期大学美容福祉学科助教授
日比野 英子	山野美容芸術短期大学美容福祉学科助教授
平尾 良雄	山野美容芸術短期大学美容福祉学科助教授
西本 典良	山野美容芸術短期大学美容福祉学科助教授
青木 和子	山野美容芸術短期大学美容芸術学科助教授
福島 清	山野美容芸術短期大学事務局長
佐野 恒夫	山野美容芸術短期大学総務課長

広告協賛一覧

協 賛

山野美容芸術短期大学

広 告

山野美容芸術短期大学美容福祉学科

株式会社アリミノ

高崎ニュース堂

株式会社オカセン

株式会社キタ・メディア

財団法人国際美容協会

生活協同組合東京インターカレッジコープ

コメット電機株式会社

日本通運（株）新宿旅行支店

株式会社ハリソン

梅菜

W a W a W a

フットライフヤマモト

株式会社ヘルスケア

株式会社ヤマノ

株式会社ヤマノビューティメイト

ユニ・チャームメンリッケ株式会社

ロフテー株式会社

山野美容芸術短期大学

（50音順を原則とさせていただきました。）

日本美容福祉学会誌 第1巻 抄録集 2001年3月31日発行
The Japanese Journal of Welfare and Aesthetics Vol.1 Suppl.

□発行 第1回日本美容福祉学会学術集会事務局
〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530
山野美容芸術短期大学内
Tel. 0426-77-0111 Fax. 0426-77-0234 E-mail:bfgakkai@yamano.ac.jp

□印刷 株式会社 キタ・メディア